【 骨子案 】　上島町学校適正配置基本計画
～子どもの夢を育む学校の在り方について～

令和８年２月　　上島町教育委員会

Ⅰ 計画策定にあたって

○　上島町教育委員会は、令和３年の第１期に続き、令和7年3月に第2期上島町学校の在り方検討委員会を招集し、将来を見据えた望ましい教育環境の在り方について協議を再開した。検討委員会では、学校の現状や課題を踏まえ、学習方法や学校活動、学校配置について検討し、統廃合を含む学校適正配置の方向性を取りまとめ、提言書を提出した。

○　これからの社会では、ＡＩやグローバル化の進展を背景に、協働学習・探究学習を通じて、思考力や課題解決力を育む一定規模の学習環境が重要となっている。

○　基本計画の策定にあたっては、児童生徒数や教職員配置、施設状況等を把握するとともに、保護者を中心とした関係者の意見を踏まえ、持続可能で望ましい教育環境の整備を目的として取りまとめた。

Ⅱ 具体的な学校適正配置基本計画の内容

１　弓削小学校・生名小学校・岩城小学校
　令和10年度に、３校を１校に統合し、弓削小学校の施設を活用する。
２　弓削中学校・岩城中学校
　令和11年度に、２校を１校に統合し、弓削中学校の施設を活用する。
３　魚島小・中学校
　離島留学制度（さざなみ留学）を活用し、小中一貫校として存続する。

○　統合校の設置場所については、既存校への愛校心が強く、可能な限り残してほしいという意見もあった。

○　各施設の耐用年数を考慮し、既存施設を最大限活用する。

○　児童生徒の学習環境を最優先に考え、統合による変化を最小限に抑える。

○　地域の教育・文化の拠点として地域と学校が協働して子どもを育む体制を更に強化。

Ⅲ 学校統合に係る教育委員会・学校等の今後の方策

○　校名等、新学校の運営等に関する詳細について、協議・調整する。

○　あらゆる通学手段を検討し、通学時間を考慮した運行体制を充実させるとともに、課外活動や部活動後の帰宅手段確保を検討する。また、登下校の安全確保・見守り、始業時間の検討、災害時対応等、ハード・ソフト両面の対策を講じる。

○　少人数指導の利点を活かしつつ、充実した教育体制を構築する。また、小中連携を一層強化し、９年間を見通した教育課程編成を行う。

○　教育・文化の拠点機能が縮小しないよう、ＰＴＡや学校運営協議会等を通じて、地域と学校の結び付きを維持・強化し、地域住民が引き続き子どもたちの成長を支える体制を確保する。

○　児童生徒の安全・安心を最優先に考えた対策の徹底、相談体制の充実を行う。災害時について、複数の事態を想定した具体的な対応計画を策定する。そして、一人一人が安心して学校生活を送れる体制づくりを進める。

上記事項の調整に必要な協議を行うため、統合準備委員会（仮称）を設置する。

令和７年 12 月 22 日

上島町教育委員会教育長 様

上島町学校の在り方検討委員会
委員長 小澤 宏次

上島町学校の在り方検討委員会の提言書の提出について

上島町学校の在り方検討委員会（第２期）は、令和４年度に開催した上島町学校の在り方検討委員会（第１期）を受け、今後の上島町における望ましい学校の在り方について検討するために、令和７年３月に設置されました。これまでに計７回の協議を経て、次のとおり提言を取りまとめましたので、提出いたします。

１　協議事項 上島町内の望ましい学校の在り方・適正配置について

２　検討委員会としての意見

○　弓削小学校・生名小学校・岩城小学校について

既存施設を活用し、令和 10 年度に、１校への統合を目指すこと、弓削小学校の施設を活用することが適当である。

○　弓削中学校・岩城中学校について

既存施設を活用し、小学校との連動を踏まえ、令和 11 年度に、１校への統合を目指すこと、弓削中学校の施設を活用することが適当である。

○　魚島小・中学校について

今後も、離島留学制度（さざなみ留学）を活用して、小中一貫校として学校存続を目指すことが適当である。

３　協議事項に対する考え方

当委員会では、今後の上島町の小中学校の適正配置について検討した。検討にあたっては、町の少子化の進行を前提に、児童生徒数の推計、通学環境の整備状況、学習機会の確保、地域住民・保護者の意見、そして国や県の教育施策との整合性を踏まえて協議を行った。

まず、児童生徒数については、町全体で小学生は令和７年度に約 170 名、中学生は約 100 名であるが、今後も減少が見込まれており、令和 12 年度には小学生が約 100 名、中学生が約 80 名程度となる推計が示された。特に島ごとの偏在が顕著であり、学習活動の制限や部活動の維持に困難が生じることが明らかとなった。

また、学校施設の老朽化や耐用年数の課題、通学バス運行体制などの現状が共有され、教育環境の質を保つためには一定の統合が必要であるとの認識が委員の間で形成された。

一方で、魚島小・中学校については、極めて少人数であるが、離島留学制度（さざなみ留学）の活用により一定の児童生徒数が確保されていること、地域住民の学校存続への願いがあることから、引き続き小中一貫校としての存続を目指すことが妥当であると

整理した。
　弓削・生名・岩城の小学校については、岩城小校舎が耐用年数を迎えること、複式学級を解消することから、令和 10 年度に３校を１校に統合することが適当であると考える。
　また、弓削中学校と岩城中学校についても、生徒数の減少により単独での教育活動が制約されている現状から、小学校統合との連動を考慮し、令和 11 年度に２校を１校に統合することが適切であるとの結論に至った。
　統合校の設置場所については、地元（各島）の学校への愛校心が強く、可能な限り残してほしいという意見もあったが、既存施設を最大限活用することを前提に、児童生徒の学習環境を最優先に考え、議論を重ねた。様々な意見が出され、全会一致に至らず投票採決を行った結果、小学校は、弓削小 10 票、生名小４票、岩城小１票、中学校は、弓削中 11 票、岩城中４票となり、弓削小学校・弓削中学校の施設を活用することが望ましいとの意見が多数を占めた。
　これらの協議を通じて、当委員会としては、学校統合はやむを得ない選択である一方、地域の教育・文化の拠点としての役割を維持するため、地域と学校が協働して子どもを育む体制をさらに強化すべきであるとの認識を共有した。

４　今後の課題

○　統合準備委員会（仮称）を開催し、令和 10 年度の小学校統合、令和 11 年度の中学校統合に向け、校名等、新学校の運営等に関する詳細について、協議・調整する必要がある。

○　統合によって通学距離が延伸する児童生徒が生じるため、あらゆる通学手段を検討し、通学時間を考慮した運行体制の充実が不可欠である。小学校における課外活動や中学校における部活動後は、帰宅手段を確保することを検討する。また、通学バスの安全な乗降場所の確保、通学路の安全点検、登下校時の見守り、始業時間の検討、災害時の対応といったハード・ソフト両面の対策を講じることが重要である。

○　統合校では少人数指導の利点を活かしつつ、教科指導や探究的学習、部活動等を幅広く展開できる教育体制を構築する必要がある。特に、中学校統合後は小中連携を一層強化し、９年間を見通した教育課程編成を行うことが重要である。

○　学校統合により地域から学校がなくなる地区では、教育・文化の拠点機能の縮小が懸念される。そのため、ＰＴＡや学校運営協議会等を通じて、地域と学校の結び付きを維持・強化し、地域住民が引き続き子どもたちの成長を支える体制を確保することが必要である。

５　その他

　本検討委員会で一部の委員から出された様々な意見は、別添のとおりである。この内容を参考に、今後の統合準備委員会（仮称）で検討していただきたい。

＜別添資料＞

統合準備委員会(仮称)への意見書

保育所・小学校・中学校保護者委員一同

1．はじめに（目的）

本提言書は、令和 10 年度・11 年度の小中学校統合に向けて、在り方検討委員会保護者委員一同として、子どもたちの健やかな成長と地域の未来のために必要と考える事項を整理し、準備委員会に検討をお願いするためのものです。私たちは、どの案が選ばれたか以上に、統廃合の過程と統廃合後の環境が子どもたちにとって最良であることを最も重視しています。そのため、以下に保護者委員一同の声を踏まえた提言をまとめます。

２．提言事項

(1)　統合準備委員会の役割と意義

統合準備委員会は、透明性の高い情報開示を行い、保護者・地域住民・学校関係者が共に考えられる環境を整えることが求められています。また、統廃合の具体化に向けた各段階において、必要な相談・確認を適宜行い、丁寧な合意形成を進めていく体制を構築することを強く求めます。統合準備委員会が単なる「決定の場」ではなく、より良い上島町の学校づくりを協働で進める場として機能することを期待します。

(2)　新学校の運営等に関する詳細について

① 新学校の校名、校歌、校章、制服については新しくすることを約束して頂きたいです。
② 校歌については、各地域の良いところを盛り込んだ歌詞にして頂きたいです。
③ 制服については、移行期間を定め新一年生から新しい制服を着用するように配慮願います。
④ 通学時間対応の為に、学校の開始時間を遅らせるのは後にずれ込むだけで解決にならないと思っています。通学時間も、有効活用し授業時間の検討をして下さい。
⑤ 児童が増えても教員数は変わらないため、児童はもちろん先生方の支援もできるよう、教員配置や学習支援ボランティア等のサポート体制を整えて下さい。

(3)　通学について

① 通学手段についてですが、30 分を目標に検討して頂きたいと思っています。バス、船、町の所有しているハイエースなども含めた様々な方法を検討し、統合前にはシミュレーションの実施をお願いします。
② 通学手段がバスの場合、人数から考えて小学校、中学校ともに 2 台必要になります。
③ 通学手段の検討の際は、上島町の公営事業課などの関係各課とも連携し検討を進めて頂きたいです。
④ 登校時の集合時間についてですが、子供の体力、生活リズム等考慮して、家を出る時間が 7 時以降になるように調整して下さい。
⑤ 登下校の手段については、各学年の授業が終わる時間、陸上や運動会練習等の課外活動、中学生は部活動等に合わせた対応をして下さい。夏休み中の課外活動についても同じです。
⑥ 島外学習などのいつもより早い登校時間にも対応できるよう、臨時便を出すなど臨機応変に送り迎えできるような仕組みを考えて下さい。
⑦ 登下校の補助員については、必ずつけて下さい。岩城は何処よりも長い時間がかかるので、保護者とし

ては1番心配な部分であります。

⑧　補助員に関しては、教育機関で実務経験があったり教員免許を持っている人の配置を依頼します。配置が難しい場合は、研修等を実施するなどして問題が起こった時にしっかりと対応できる人材を配置して下さい。

⑨　弓削小学校の停留所についてですが、現在道路で保護者や先生等の車の出入りがあり混雑して危ないとお聞きしています。バスの台数も増えますので、安全に乗り降りできる場所に変更して頂きたいです。（運動場など）

(4)　部活動や教育課程の編成について

①　統合によって、今まで頑張ってきた部活が出来なくなることを避けたいです。配置の教員の数にも限度があるので難しいことも理解しておりますが、地域移行等も含めてしっかりと検討して下さい。

(5)　地域との交流

①　子供達が各島に訪れ、その島の文化を学ぶなど地域交流の場を作って下さい。

②　子供達に岩城の祭りを伝える時間を設けてほしいです。各島にも同様な行事があると思うので偏りなく学べる時間を設けてください。

③　地域との結びつきを維持、強化する必要があると言われておりますので統合が決まりましたら、地域の人達に向けた説明会を上島町の方から開いて頂きたいです。

(6)　その他

①　災害時、距離が遠いこともあり直ぐに迎えに行けない、最悪の場合、橋や道が通れないなどの可能性があります。保護者としてもとても不安が大きいです。避難場所に避難するだけではなく、様々なパターンを考え避難方法やお迎え方法を明確にして下さい。

②　統合によって、子供のメンタルには大きな負担がかかる事が予想されます。子供が安心して学校へ通うにはしっかりとしたサポートが必要だと思っております。

・　定期的に子供達が、相談ができる時間・場所を作る。
・　スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ハートなんでも相談員等の相談員を配置する。
・　学校に行きにくい子に対して、各島にサポートルームを準備する。

など、様々な面から対応して下さい。

③　持病や障害がある子達については、今の学校から新学校への情報連携と保護者との面談を実施し、しっかりと対応して下さい。

④　教育委員会に学校統合に関する窓口や担当者を新たに設置して欲しいです。

⑤　次回の準備員会で様々な事が決まっていくと思いますが、運用していく上で再検討しないといけないことも多く出てくると思います。決めて終わりではなく運用が始まっても期間を設け決定事項に対して検討し最善のものへと更新していって下さい。

⑥　教育委員会が担当でないことは理解しておりますが、仕事をしていく上で、岩城保育所と岩城の学童は必要不可欠ですので残すことを強く希望します。学校から、岩城の学童への送迎があれば利用できると思います。仕事終わりのお迎えもスムーズにでき、保護者が統合によって仕事を見直す負担がなくなり安心です。

⑦　現在、岩城にはスポーツクラブが 1 つのみという状況です。統合後も存続できるよう配慮をお願いします。

⑧　準備委員会のメンバーについて、選定基準等も含めて教えて頂きたいです。

⑨　岩城の給食センターを存続させたいという意見も出ております。まだまだ新しい施設なので、有効活用して頂きたいです。

⑩　学校まで行くのに、車を持たない保護者や地域の人は交通手段がありません。直通のバスもないことから、緊急のお迎えにも対応できない心配があります。バスの運行ルートの変更など小学校・中学校に行く手段を確保して下さい。

⑪　今回、私達の中で通学距離が長いという事が 1 番の問題でした。今後、学校を新設する際は、この事を考慮した場所の選択をして下さい。

３．おわりに

私たちは、「通学方法」、「災害対応」、「子供のサポート体制」についてたくさんの不安があります。
これから準備委員会で詳細が決まっていくと思うのですが、
この 3 つの事案に対しては、最終決定する前に一度、保護者への説明会を実施することを要求します。
在り方検討委員会では、十分な話合いが行われていないと感じています。今後は、説明会を開いていただき、保護者が質問できる場を設けてください。そして、しっかりと説明をして下さい。
私たちは、少しでも不安を取り除き統合に向かいたい気持ちでおります。
よろしくお願い致します。